

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 100-0852

住所 東京都千代田区内幸町1-3-1

氏名 東洋製罐株式会社取締役社長 金子俊治 印

代理人 川崎工場長 小田泰宏

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項（同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。）の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東洋製罐株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町11-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	18	プラスチック製品製造業（別掲を除く）
主たる事業 の内容	プラスチック容器製造販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	14,650	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	総務課
		所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町11-1
		電話番号	044-266-1581
		FAX番号	044-299-1096
		メールアドレス	

※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	平成22年度 ~平成 24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別途 指針様式第1号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別途 指針様式第1号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別途 指針様式第1号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	エネルギー使用量原単位の削減項目を推進する事を通じて、二酸化炭素排出量の削減を図る。①第一機械室高効率インバーターターボ式冷凍機へ更新②押出機駆動モーター更新③押出機ヒーター保温④気化空調(クールクリーン) ⑤照明SWの分散化⑥生産工程及び付帯設備のエア一洩れ点検整備 詳細は、様式第1号(第4、5面)のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	モーダルシフトの実施 詳細は、様式第I号(第6面)のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	①輸送効率(直行率)の向上②駐車場兼用緑地(グリーンブロック)③廃棄物分別及び発生抑制④グリーン購入の推進 詳細は、様式第1号(第6面)のとおり
備 考	東洋製罐の環境活動の取り組みについてはホームページにて公表しています。 http://www.toyo-seikan.co.jp/eco/index.html

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

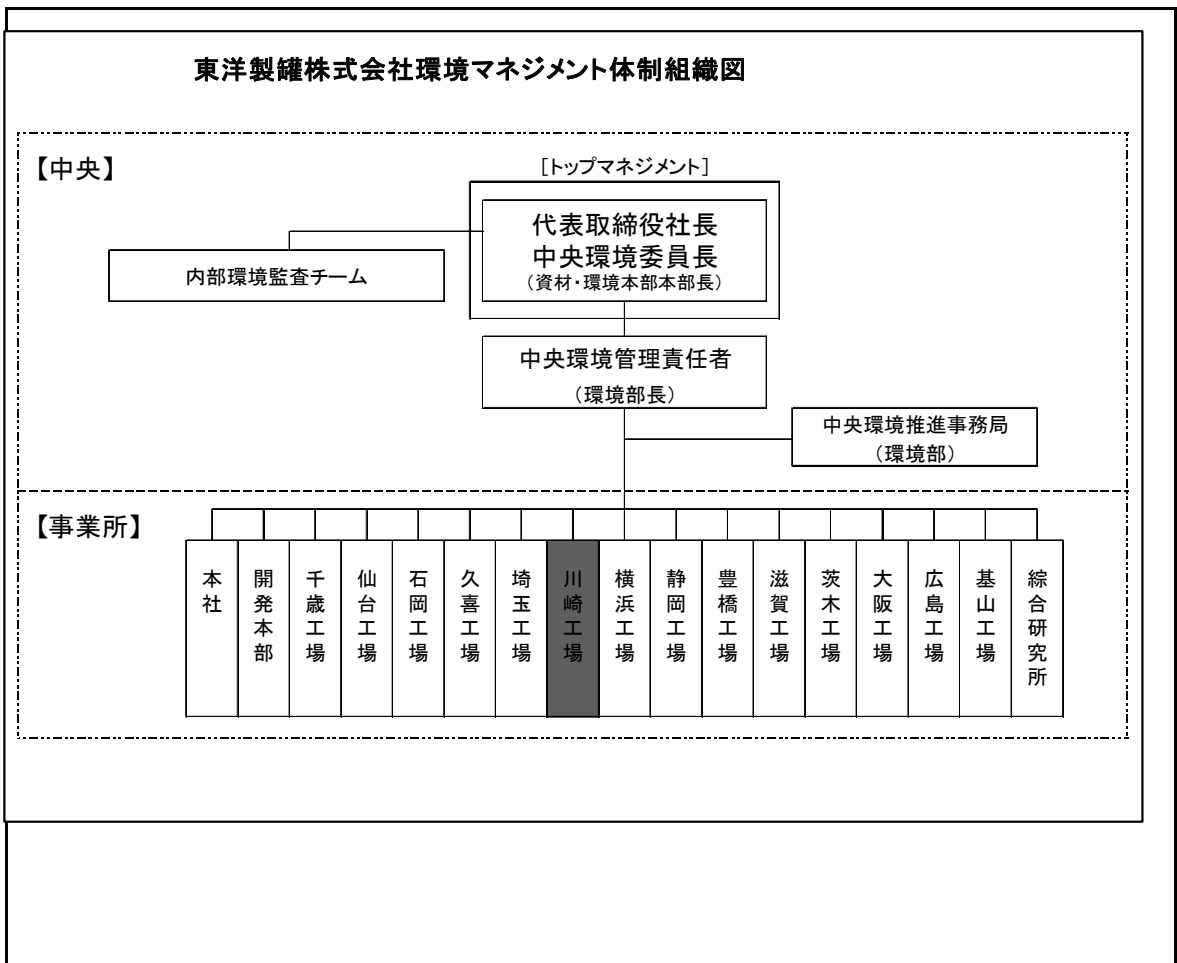
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(事業者全体) 2020年に地球温暖化ガスを1990年比25%削減するという中間目標に向け、政府主導の基で様々な取り組みが展開されていますが、化石燃料を消費し容器の生産を営む我々にとって限りある地球資源を無駄なく有効に使い、省エネルギーの推進を強化し各施策を通じて排出ガスの削減を図って行きます。 市内事業所(川崎工場)は全体方針に則って活動をする。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成 2 1 年度	目標年度	平成 2 4 年度
基準排出量	(実) 24,720 (調) 19,953	t-CO ₂	(実) 22,370 t-CO ₂
削減率	(実) 9.5	%	(実) 2,350 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	単 位
基準年度の値	目標年度の値
削減率	%
延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由	

ウ 目標設定に関する考え方

省エネルギー活動を推進することにより温室効果ガス排出量を年平均 3.17% の削減する事を目標とし 3 年間で 9.5% (2,350 t-CO ₂) の削減を目標とした。(冷凍機設備の更新によりエネルギーの使用量の削減効果が期待できる事からこの目標を設定した。)
--

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

COP15にて日本は二酸化炭素を始めとする温室効果ガスの排出量を 2020 年までに 1990 年比 25% 削減する事を世界に表明しました。東洋製罐では省エネを強化する事で地球温暖化防止に向け取り組み、付帯設備の高効率化、ブロー成形機の高速度化、生産性の向上等の活動によって 1990 年度比で 2020 年までに 25% 削減に向け活動する。

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<p>エネルギー使用量原単位の削減項目を推進する事を通じて、二酸化炭素排出量の削減を図る。</p> <p>1) 省エネルギー対策</p> <p>①押出機駆動モーター更新 ECモーターからベクトルインバーター式に更新し電力削減を図る。 (2010年度も継続して実施)</p> <p>②押出機ヒーターの保温 ヒーター保温する事により電力削減を図る。 (2010年度も継続して実施)</p> <p>③気化空調 (クールクリーン) 水の気化放熱を利用して、外気から熱を奪い温度を低下させる装置 (装置内部に細かい網目フィルター状の冷却エレメントを装備で上から水を流す事で、装置内に取り込んだ空気から熱を効率良く気化させ、大量の涼風を造る。)</p> <p>④空調機のフリークーリング (外気温度の下がる 11 月から 3 月の期間をクーリングタワーで冷却水を冷却し空調用の水として使用する事で空調用冷凍機を停止する事で電力削減を図る)</p> <p>⑤照明 SW の分散化</p> <p>⑥生産工程及び付帯設備のエア一洩れ点検整備の実施。</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

現状では省エネ設備の導入、省エネ対策を中心として温室効果ガスの排出量を削減し取り組んでいます。再生可能エネルギーを積極的に導入する事が将来重要となることを認識し、自然エネルギーの利用については今後将来構想の中で検討していく。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

①第一機械室ターボ冷凍機の更新(老朽化チラー冷凍機撤去) 2010年1月 ②EC
 モーターからベクトルインバーター化モーターの交換 2010年7月 ③INJ成形ラインの
 空調機更新 2009年5月 ④射出成型機シリンダーヒーター保温 ⑤照明電力の削減(1
 10W. 2灯を36W. 2灯へ交換) 2008年8月

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

物流事業者との協力によるモーダルシフトの実施。
副資材輸送を貨物鉄道輸送に一部切り替えて、年間目標31t-c02の温室効果ガス排出を削減する。
20.2t-c02(目標の65.2%達成)の削減。(2009年度については年間/

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- ①輸送効率の向上(直行率) 製品をトラックにて営業倉庫へ運搬、一端保管管理し、出荷に合わせお客さまへ製品納入を直接自倉庫に保管し出荷する。
- ②駐車場兼用緑地(グリーンブロック) 工場立地法による必要緑地面積と駐車場確保の両立を目的とした駐車場兼用緑地。(リサイクル材の使用、ヒートアイランド減少緩和)
- ③廃棄物分別及び発生の抑制 廃棄プラスチックの用途別の仕分け。(紙類の裏紙の再使用、電子メール)
- ④グリーン購入推進

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	24,720	t-CO ₂
(調)	19,953	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東洋製罐川崎工場	川崎市川崎区浮島町 11-1	1892	プラスチック容器製造販売	24,720 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k1 未満	
300~400k1 未満	
200~300k1 未満	
100~200k1 未満	
100k1 未満	